

想 続

老いについて

一般社団法人日本想続協会 代表理事・税理士 内田麻由子

「お若いですね」と言われると私たちは嬉しいものです。では若いことはいいことで、老いることはマイナスの面ばかりなののでしょうか。素敵に輝いている人生の先輩方の生き方を拝見していると、老い＝マイナスとは一概に言えない気がします。今月は、これから老いていくにあたりどのような心の持ち方をしたらよいのだろうか、ということを考えてみたいと思います。

☆ ～ ☆ ～ ☆

●ユーモアと感謝の心で、老いを受け入れる

「もの忘れ 百回したら 認知症」——中高年のアイドル・綾小路きみまろ氏の迷言です。もちろん、もの忘れと認知症は違います。誰だってももの忘れはありますよね。とにかく人の名前が出てこない。朝は駅まで自転車で行ったのに、帰りは歩いて帰ってきてしまった。電車の中で読書に夢中になり、電車を降りたら車内に日傘を忘れたのに気がついて、急いで車内にとって返して日傘は救出したが、肝心のバッグを網棚に置いてきてしまった……。長いこと生きていけば、勘違いだってありますよね。町田から小田急線のロマンスカーで下りの御殿場方面に乗るべきところを、いつもの習性で上りの新宿方面に乗ってしまい、その座席に座るべきだった人が来たのに「ここ私たちの席なんですけど」と追い返してしまった。ハワイのホテルで1日早くチェックアウトしようとしてしまい、フロントの人に「あなたは明日ですよ」と言われてしまった。デパートのトイレで水を流そうとして、誤って非常ボタンを押してしまい、非常ベルをあたりに轟かせてしまった……。いいのです、笑い話にしまえば。またネタがひとつ増えたと思えば、いいじゃありませんか（最後のトイレ事件は、私ではなく母ですが）。

中高年になれば、シミ、しわ、白髪、脂肪など増えるものばかりです。減るのは貯金と年賀状ぐらい（私じゃなくて、きみまろさんがそう言ったのです）。ある年配の看護師さんが「いやになっちゃうわ。老眼鏡をかけるようになっちゃうって」とボヤいたところ、それを聞いた女の子に「よかったね」と言われたそうです。「どうして老眼鏡がいいのよ」ちょっとムツとして聞くと、「老眼鏡がかけられるまで長生きできてよかったね」と。その女の子は難病で、いくつまで生きられるかわからない命だったのです。頭と身体の老化を嘆くのではなく、この年まで無

事に生きてこられてありがたいことだと、そう思いたいものです。

●次の世代のことを考え、行動する

聖路加国際病院の日野原重明先生は、全国の小学校で、いのちの大切さについて講話をなさってきました。日野原先生は子どもたちに、「いのちとは、君たちが使える時間のことなんだ。大きくなったら、人のために自分の時間を使おう」とやさしく教えます。日野原先生が立ち上げた「新老人の会」では、子どもたちに平和と愛の大切さを伝えることを使命としています。

松下幸之助さんの松下政経塾や、稲森和夫さんの稲和塾をはじめ、多くの経営者の方は、次世代のリーダーを育てることに情熱をかたむけていらっしゃいます。

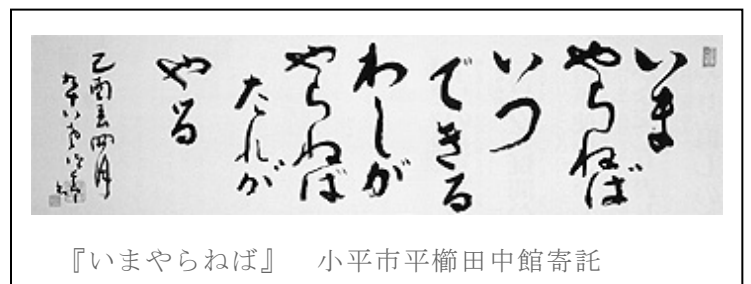
私の知人のSさん（60代女性）も、会社を定年退職した後、地元の中学校で、子どもたちに生き方の講話をなさっています。Sさんは「死ぬまで人の世話をしたい」とおっしゃいます。また知人のOさん（60代男性）は、本業のかたわら、高校生・大学生と一緒に、海外でのボランティア活動に毎年赴いていらっしゃいます。

現役を退いたあとも、ただ自分の楽しみのためだけに生きるのではなく、日本の将来を担う子どもたちのために、自分の経験を少しでも役立てることができたら素晴らしいなと思います。そして、若い人たちから「あんな風に歳をとりたい」と言われるような老人になりたいと思います。

●創めること・学ぶこと

先日101歳で亡くなった柴田トヨさんが詩をはじめたのは、90歳を過ぎてからだそうです。詩集「くじけないで」はベストセラーとなり、多くの人に感動と勇気を与えました。

彫刻家の平櫛田中さんは、満100歳の誕生日を前に、30年分の材料を買い込んだと言われています。「いまやらねばいつできる わしがやらねばだれがやる」のお言葉には重みがあります。



マハトマ・ガンジーは「明日死ぬつもりで生きなさい。永遠に生きるつもりで学びなさい」と言いました。いくつになっても、創めること、学ぶことを忘れずにいたいと思います。

☆ ～ ☆ ～ ☆

「女（おみな）あり 二人行く 若きはうるわし 老いたるはなおうるわし」——アメリカの詩人、ホイットマンの詩です。松原泰道老師は、老いのうるわしさとは、生き方を丹精する美しさであるといいます。日々心を耕して、老いてなおうるわしくありたいと思います。